

総合2025

気づきの先はいつも晴れ ～心にかかる霧を晴らそう～

第10回 9月11日(木)13:00～14:30

AI時代を生きるための人間力



若宮正子氏

(ITエバンジェリスト)



会場：津田塾大学小平キャンパス特別教室

<講師プロフィール>

高校卒業後、三菱銀行(現・三菱UFJ銀行)に定年まで勤務。58歳からパソコンを独学で学び、2017年にゲームアプリ「hinadan」を公開、これにより米国Apple社CEOよりWWDCに特別招待された。同年より数々の政府主催会議の構成員を勤める。2018年には国連社会開発委員会のイベントで講演し、2020年には国連人口基金のイベントで講演。現在は一般財団法人メロウ倶楽部の理事を勤め、熱中小学校教諭も勤めている。岸田首相主催・デジタル田園都市国家構想実現会構成員、デジタル庁デジタル社会構想会構成員の他、政府委員を勤めた。エクセルアートの創始者でもある。2023年度津田梅子賞受賞者。

<担当スタッフより>

若宮さんは、「若者は、高齢者についてわかっているとは言えない。しかし、自分(若宮さんご自身)が若者だった時に高齢者について分かってほしいかということではなかったかもしれない。」と考え、「それならお互いに分かり合おう」という思いを持っています。この思いに基づき、この講演では年代的格差についてお話ししていただきます。高齢者が必要としている手助けと実際に行われているサポートのズレから生まれる「ぼやき、つぶやき」は、片方の一方的な働きかけがあっても「気づき」に発展しません。お互いの意見を聞くことが大事なのです。この「気づき方」は、年代的格差に限ったことではなく、ジェンダー格差にも関連しています。若宮さんが銀行員として活躍されていた時代は男女格差が現在よりも根強く残っていました。「女の子」という立ち位置について、それに基づいた決めつけがあったのも事実です。若宮さんの経験談は、年代やジェンダーの格差に関する「もやもや」を「気づき」に変えるきっかけになるはずです。今回の講演を通して、時代が変わる度にあらゆる壁を乗り越えてきた生き方から、これからの社会を生き抜いていかなければならない私たちに向けて貴重なアドバイスをいただきたいと思います。